



うらやす

宇部市立上宇部小学校
学校だより 1月号
令和5年1月10日発行

『ことば』って大切！

宇部市立上宇部小学校
校長 三輪 孝行

「やばい」という言葉。

「危ない」という意味で使われていたのが、「すごい」という意味で使われたり、「大変すばらしい」という意味でも使われたりするようになりました。

「やばい」「うざい」「ださい」等、濁音がつく言葉は、しばしば、いじめの原因にもつながることがあります。

親から叱られた時、その態様から、「叱られた」「諭された」「戒められた」「怒られた」「大目玉をくらった」「雷を落とされた」等いろいろありますが、語彙がないと、すべてが「叱られた」で終わりです。

子どもたちは、周りの人の使う言葉を吸収しながら語彙を増やしていきます。

ことばの力を育てるためには、様々なニュアンスや心のわずかな変容を表すことばを、子どもたちの耳に届けることが必要なので、先生方には、言語環境について心がけておくようお願いしています。

もちろん、子どもたちが生活するのは学校だけではありません。家庭での言語環境も大切です。

学校から保護者の方へ電話連絡をすることがよくあります。

例えば、Aさんの家に電話連絡をすると・・・

はい、〇〇でございます。
いつも息子がお世話様になっております。
あいにく、息子は外出しておりますので、戻りましたら、
その旨を必ず伝えておきます。
御連絡、どうもありがとうございました。

続けて、Bさんの家に電話連絡をすると・・・

もしもし、〇〇だけど、誰？
えっ、息子？
今いないけど、何？

子どもたちが耳にすることばの発信元は、家族の方だったり、友だちだったり先生だったり、テレビだったり、ゲームからだったりします。子どもの耳に届きたいことばもあれば、届けたくないことばもあります。

昨年は、「感謝」の気持ちを大切にしようと思った一年でしたが、今年は、「ことば」を大切にしようと思ったところです。

皆様、本年も引き続き御支援・御協力をどうぞよろしくお願いいたします。